

日本学校教育学会 第 35 回 総会（学会HP公示）

期 日：2020(令和2)年8月11日(火)～9月11日(金)

公示資料をご覧の上、議事内容に疑義がある場合には10月11日(日)までに学会事務局までお申し出ください。期日までに反対の申し出が無い場合に承認されたものとみなします。

次 第

1 議 事

- | | | |
|--------------------|-------------|-------|
| (1) 2019年度 会務報告 | 蜂須賀 洋一 事務局長 | (資料1) |
| (2) 各種委員会報告 | | |
| ① 研究推進委員会 | 原田 信之 委員長 | (資料2) |
| ② 国際交流委員会 | 中山 博夫 委員長 | (資料3) |
| ③ 機関誌編集委員会 | 山崎 保寿 委員長 | (資料4) |
| ④ 実践研究委員会 | 藤田 武志 委員長 | (資料5) |
| (3) 2019年度学会賞 | 推薦、該当者なし | |
| (4) 2019年度決算及び会計監査 | 湯澤 卓 事務局幹事 | (資料6) |
| (5) 2020年度予算案 | 湯澤 卓 事務局幹事 | (資料7) |

2 その他

添付資料

- | | |
|-------------------------------|-------|
| 日本学校教育学会役員一覧(2019年8月～2022年7月) | (資料8) |
| 日本学校教育学会研究大会の歩み | (資料9) |

2019 年度(2019 年 8 月～ 2020 年 7 月)会務報告

事務局長：蜂須賀洋一

1 第 34 回研究大会について

期 日：2019 年 8 月 3 日（土）～ 4 日（日）※ 8 月 2 日（金）に第 34 回理事会開催を開催

会 場：金沢学院大学（大会実行委員長：米澤利明氏）

参加者：約 200 名（2 日間ののべ数）

内 容：自由研究発表：55 件

課題研究テーマ「教師教育の高度化と地域教育課題への対応～教職大学院は地域の期待に
応えているか～」

ミニシンポジウムテーマ

- ① 新時代を意識した学校教育～共生社会を創るための学校教育の在り方を問う～
- ② 新時代の教職員に求められる資質・能力～学校教育・学校事務職員の立場から～
- ③ 新時代の言語教育

2 第 35 回研究大会について

2020 年 4 月 21 日（火） 全国理事会メール審議の結果、研究大会の 1 年延期、および研究大会
代替として HP 上での自由研究ポスター発表を実施することを決定

2020 年 6 月 3 日（水） 2020 年度研究大会代替自由研究ポスター発表実施要領を送付。

2020 年 8 月 11 日（火）～9 月 30 日（水）日本学校教育学会HP 上でのポスター発表実施予定

3 会報「JASEニュース」について

2019 年 11 月 6 日に第 42 号を発行し、会員宛に送付。

4 常任理事会について

以下の通り 1 回開催及び新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大の影響によるメール審議

第 1 回常任理事会（2019 年 12 月 7 日）キャンパス・イノベーション・センター東京（田町）

主要議題：学会の運営方針、各種委員会の活動計画、第 35 回研究大会準備状況、他

※メール審議：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大の影響により、2020 年度研究大会の延期に伴う対応措置（ポスター発表）、他

5 会員数について

会員数：456 名（2020 年 7 月末現在、名誉会員 6 名を含む）

→2019 年度の増減

（増）入会者 44 名

（減）退会者 54 名（申し出によるもの 15 件、見なし退会等 39 件）

参考…2018 年度 会員数 467 名

※ 詳細は機関誌第 35 号の「2019 年度の活動記録」をご参照ください。

※ この報告には、以下の事項は含めておりません。

各委員会（研究推進、国際交流、機関誌編集、実践研究）および会計に係る事項

2019年度 研究推進委員会活動報告

研究推進委員会

委員長 原 田 信 之

1. 研究推進委員会の構成

委員長 原田信之（名古屋市立大学）

副委員長 菅原 至（上越教育大学）

委 員 田中 謙（日本大学）

棚野勝文（岐阜大学）

三村隆男（早稲田大学）

矢嶋昭雄（東京学芸大学）

幹 事 福島正行（盛岡大学）

2. 3ヶ年を展望した研究大会課題研究のテーマ案の作成

「教師教育の高度化におけるミドルリーダーの養成」

2019 年 教職大学院におけるミドルリーダー育成の実態と課題

—MLの位置と養成ターゲット—

2020 年 教職大学院で育成するミドルリーダーの専門的力量とは（仮）

—MLに求められる教師力とその育成課題—

2021 年 教職実践知の継承に教職大学院はどのように貢献できるのか（仮）

—教師教育の高度化とMLの役割—

3. 研究大会（岩手大学）延期による措置の決定

- ・今年度冬にZOOM配信による課題研究（フォーラム形式）を開催する
- ・2019年のテーマで開催する

4. 年報第3号課題研究関連の投稿論文

投稿論文1点に対し、研究推進委員会として3名の査読者を立てて対応した。

5. 会計報告

研究大会延期により課題研究が開催できなかったため、予算収入 150,000 円の支出はなかった。この2019年残額をそのまま2020年予算とする。

2020 年度 研究推進委員会活動計画案

1. 研究推進委員会の構成

委員長 原田信之（名古屋市立大学）
副委員長 菅原 至（上越教育大学）
委 員 田中 謙（日本大学）
棚野勝文（岐阜大学）
三村隆男（早稲田大学）
矢嶋昭雄（東京学芸大学）
幹 事 福島正行（盛岡大学）

2. 研究推進委員会（研究大会課題研究）のテーマ：

「教師教育の高度化におけるミドルリーダーの養成」

2019 年（2020 年度冬 ZOOM 開催）

教職大学院におけるミドルリーダー育成の実態と課題
—ML の位置と養成ターゲット—

2020 年研究大会（岩手大学）

教職大学院で育成するミドルリーダーの専門的力量とは（仮）
—ML に求められる教師力とその育成課題—

2021 年研究大会（未定）

教職実践知の継承に教職大学院はどのように貢献できるのか（仮）
—教師教育の高度化とML の役割—

3. 本年の活動計画案

(1) 今年度冬に ZOOM 配信による課題研究（フォーラム形式）の企画

「教職大学院におけるミドルリーダー育成の実態と課題
—ミドルリーダーの位置と養成ターゲット—」

提案者：安藤知子会長＋2 名を予定

司 会：原田信之

(2) 公開研究会（実践研究委員会主催）への協力

4. 予算案

(1) 収入 150,000 円（年報所定経費除く諸経費を含む）

(2) 研究大会（岩手大学）「課題研究」

①非会員登壇者への交通費・謝礼：未定

②会議費・課題研究打ち合わせ（弁当・茶など）：10,000 円

③その他

2019 年度 年報編集委員会活動報告

年報編集委員会

委員長 原 田 信 之

1. 年報編集委員会の構成

編集委員長：原田信之（研究推進委員会 委員長）

編集委員：藤田武志（実践研究委員会 委員長）

（2020 年 4 月～2021 年 3 月までの委員長代理：金井香里）

中山博夫（国際交流委員会 委員長）

米澤利明（第 34 回研究大会 準備委員長） ※2019 年のみ

編集幹事：田中 謙（研究推進委員会）

福島正行（同）

吉田尚史（実践研究委員会）

醍醐美奈（国際交流委員会）

2. 『日本学校教育学会年報』論文投稿要項改正

- ・原稿の提出方法が不統一であったため、これを修正した。これに伴い第 4 項を削除したうえで、項のナンバリングを揃えた。
- ・電子メールでの提出に統一したため、提出締切に関し「消印有効」を削除した。

3. 『日本学校教育学会年報』編集委員会内規の作成

4. 『日本学校教育学会年報第 2 号』編集作業

- ・課題研究発表者、実践研究発表者、国際交流時発表者、学会企画発表者への原稿投稿依頼
- ・新型コロナウイルスによる国際交流中止に伴う措置の検討
⇒国際交流委員会による代替の研究会を開催することで、投稿資格有とした。
- ・各委員会において投稿論文の査読
- ・3 月 26 日年報編集委員会への査読済原稿の提出
- ・キーワード、英文タイトル、形式等の確認作業、不足部分の依頼
- ・装丁、目次、奥付等作成作業
- ・田中謙編集幹事による原稿版組み作業
- ・印刷会社入稿
- ・原稿校正の依頼
- ・最終チェックによる細部の調整
- ・印刷完了・学会事務局へ配送
- ・会計処理

5. 『日本学校教育学会年報第 2 号』

仕様：A5 版、表紙：特色 1 色＋モノクロ 1 色、マットコート厚紙、無線綴じ製本

総頁数：94 頁

印刷数量：450 冊

経費：248,490 円（@552.20 円）※配送料業者負担（実質値引）

※支出項目：機関誌買取代にて支出

2020 年度 年報編集委員会活動計画案

年報編集委員会

委員長 原 田 信 之

1. 年報編集委員会の構成

編集委員長：原田信之（研究推進委員会 委員長）

編集 委員：藤田武志（実践研究委員会 委員長）

中山博夫（国際交流委員会 委員長）

編集 幹事：田中 謙（研究推進委員会）

福島正行（同）

吉田尚史（実践研究委員会）

醍醐美奈（国際交流委員会）

2. 『日本学校教育学会年報第 3 号』編集作業案

① 『日本学校教育学会第 3 号』

年次研究大会（岩手大学）は延期されたが、年報第 3 号は刊行する。

②論文投稿要項第 1 項に基づく投稿論文の募集

各委員会等における ZOOM を介した研究集会等で発表したものを投稿対象とする。

昨年度までに実施された学会企画（一ノ関）の報告文も対象に含める。

③巻頭言等の企画の充実を年報編集委員会で検討する

④2021 年 2 月 20 日を年報編集委員会（編集委員長及び編集委員）への提出締切とする

各委員会内で査読し、査読審査後、3 月 20 日までに掲載可とした論文等を年報編集委員長にメールで送付する。

⑤原稿版組作業に入る。

⑥校正作業

⑦製本完了：7 月初予定

3. 『日本学校教育学会年報第 3 号』予算

仕様：A5 版、表紙：特色 1 色＋モノクロ 1 色、マットコート厚紙、無線綴じ製本

総頁数：?? 頁（参考：第 1 号 100 頁、第 2 号 94 頁）

印刷数量：4 5 0 冊

経費：2 5 ～ 3 2 万円 （頁数による）

※支出項目：機関誌買取代にて支出

※特別な送料、編集費等が発生する場合には、研究推進委員会活動経費から支出予定。

2019 年度 国際交流委員会 活動報告・2020 年度活動計画

1. 委員会の構成

- 委員長 中山 博夫 (目白大学)
副委員長 林 明 煌 (台湾・国立嘉義大学)
委員 牛 志 奎 (中国・馬鞍山師範高等専科学校) 小池由美子 (上田女子短期大学)
張 建 (東京電機大学) 林 尚 示 (東京学芸大学)
南美 佐江 (関西インターナショナルハイスクール)
幹 事 醍醐 身奈 (目白大学)

2. 2019 年度の活動計画の活動報告

- ① 海外スタディツアー (マレーシア科学大学教育学部での研究交流) 中止 6
 - マレーシアのペナンにあるマレーシア科学大学教育学部、マレーシア科学大学海洋研究センター、ミンデン・ハイト小学校、ロヒンギャ族難民小学校への訪問を予定していたが、Covid-19 の影響により中止せざるえなくなった。14 名のツアー参加予定者には、学会予備費、国際交流委員会予算、MRC (マレーシア専門旅行社) からの補填により、費用全額の返金できた。
- ② オンライン公開研究会の実施 (5 月 26 日 (火) 19:00~20:30)
 - 海外スタディツアーにおいて、マレーシア科学大学教育学部で研究発表予定だった 3 名の会員の研究発表を行った。21 名の参加者があった。
- ③ 研究大会 (岩手大学大会) で国際交流委員会のラウンド・テーブル開催の延期
 - 1 年間の延期になり、次年度に向けて計画を深化させたための方策を考えてきた。

3. 2020 年度の活動計画 The plan of International Committee, 2020

- ① 海外スタディツアー実施の見送り
 - 新型コロナウイルスの影響で会員の職場では海外出張が認められない状況が出てきている。また、現在 183 か国・地域において、日本からの渡航者の入国制限 (通常の入国は不可) がされている状況である。そのため、海外スタディツアーの実施は見送りにせざるえない。
- ② 国際交流委員会オンライン研究会の実施
 - 国際交流委員会のオンライン研究会を年度内に 3 回実施したい。それぞれ定員 23 名先着順で、参加資格は学会会員であることとする。ただし、国際交流委員・幹事の推薦がある場合は、その限りではない。学会 HP で広報する。
 - 8 月上旬「Covid-19 パンデミックと学校教育」ミニ・シンポジウム
(1 時間半ほどで 5 か国の状況について情報共有して、ポストコロナについて語り合う)
 - 台湾: 林尚示先生 (会員・委員) ・林明煌先生 (会員・委員)
 - 中国: 牛志奎先生 (会員・委員)
 - マレーシア: 徳永誠氏
(元マレーシア政府観光局マネージャー、KL 在住大学院生)
 - タイ: チャンタナ・チャンバンチョン先生 (ナレスワン大学)
 - 日本: 隅内利之先生 (会員・隅内教育研究所所長、青梅市教育委員会)
 - 9 月下旬「マレーシアと日本の教育交流」
 - 副田雅紀先生 (マレーシア科学大学日本文化センター)
 - 12 月下旬「SDG s と学校教育」
 - チャールズ・ンブリ・ポリコ氏 (国連 FAO 駐マダガスカル事務所長)
- ③ 年報第 3 号刊行への貢献
 - 年報編集委員会の方針の下、他委員会の動きと連携して、年報に掲載できる質の高い論文を集めるために可能な限り努力する。
- ④ 研究大会 (岩手大学大会) で国際交流委員会のラウンド・テーブル開催の準備
 - 国際交流委員会活動の理解、国際理解・国際交流を促進する内容のラウンド・テーブルの準備を行う。

2019 年度機関誌編集委員会活動報告・2020 年度活動計画

1 常任編集委員会の構成

委員長 山崎 保寿（松本大学）
副委員長 小西 尚之（金沢学院大学）
委員 大越 啄櫻（新潟市立南万代小学校） 奥泉 敦司（金沢学院大学）
黒田 友紀（日本大学） 松井千鶴子（上越教育大学）
望月 耕太（神奈川大学）
幹事 鈴木 瞬（金沢大学） 木下 豪（筑波大学（院））

2 機関誌編集委員会の主な活動

(1) 編集会議関係

2019 年 12 月 24 日 機関誌編集委員会より「機関誌第 35 号の編集方針及び投稿論文等の募集について」を会員宛送付（事前に編集委員会内メール審議）

2020 年 1 月 26 日 第 1 回機関誌常任編集委員会（主要議題：特集論文の構成および執筆者について）

以下、編集委員会を zoom によるオンライン方式（事前に会議内容・方法を伝達、テスト会議を実施）、メール、電話を併用して実施

2020 年 3 月 7 日 第 2 回機関誌常任編集委員会開催（主要議題：投稿論文の査読者選定）

2020 年 4 月 12 日 第 3 回機関誌常任編集委員会開催（主要議題：第一次査読結果の検討）

2020 年 6 月 28 日 第 4 回機関誌常任編集委員会開催（主要議題：第二次査読結果の検討）

2020 年 7 月 27 日 掲載予定論文の再々修正状況を最終確認

2020 年 9 月 機関誌第 35 号発行予定

(2) 編集規程関係

「日本学校教育学会機関誌編集規程」の改正（会則および実態との整合を図り、理事会推薦による編集委員、副編集委員長に関する項目を追加、投稿論文の送付先を機関誌編集委員会幹事宛、改正・施行年を西暦に統一）

3 機関誌第 35 号関係

(1) 特集論文 深い学びをどう実現するか

①奥泉敦司（金沢学院大学） ②黒羽正見（白鷗大学） ③小西尚之（金沢学院大学） ④三村隆男（早稲田大学）

(2) 投稿論文

①自由研究論文：21 編（内掲載 2、特集論文への区分変更 1、外不受理 2） ②実践的研究論文：5 編（内掲載 1、実践研究ノートへの区分変更 1、外不受理 1） ③実践研究ノート：10 編（内掲載 4、実践的研究論文からの区分変更 1）

(3) 第 34 回研究大会関係

①課題研究「教師教育の高度化③ 教師教育の高度化と地域教育課題への対応—教職大学院は地域の課題に込えているか？—」

コーディネーター・司会：堀井啓幸（常葉大学） 根津朋実（筑波大学）

パネリスト：牛渡 淳（仙台白百合女子大学） 紅林伸幸（常葉大学） 佐々木幸寿（東京学芸大学）

②シンポジウム

基調講演：「新時代に向けての教育改革を考える」常磐 豊（国立教育政策研究所）

公開ミニ・シンポジウム（第1会場）「新時代を意識した学校教育―共生社会を創るための学校教育の在り方を問う―

司会：菊地和彦（（独）国際協力機構北陸センター）

シンポジスト：武田さやか（（独）国際協力機構北陸センター） 北 洋輔（石川県白山市立蝶屋小学校） 釜田 聡（上越教育大学）

公開ミニ・シンポジウム（第2会場）「新時代の教員に求められる資質・能力―学校教育・事務職員の立場から―」

司会：奥泉敦司（金沢学院大学）

シンポジスト：嶋 耕二（石川県教育委員会学校指導課） 西念佑馬（金沢学院大学）
藤平 敦（日本大学）

公開ミニ・シンポジウム（第3会場）「新時代の言語教育」

司会：村松麻里（金沢学院大学）

シンポジスト：直山木綿子（文部科学省初等中等教育局） 紺村由紀子（石川県白山市立東明小学校） 荒納郁美（金沢大学附属高等学校）

(4) 研究余滴 多田孝志 佐々木幸寿 木村松子

(5) 図書紹介

①岡野昇・佐藤学編『小学校体育 12ヶ月の学びのデザイナー「学びのこよみ」の活用と展開』大修館書店、2019年、1760円税込（担当：大越啄櫻）

②金井香里・佐藤英二・岩田一正・高井良健一『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂 2019年、2640円税込（担当：松井千鶴子）

③山崎保寿『未来を拓く教師のための教育課程論―学習指導要領からカリキュラム・マネジメントまで―』学陽書房 2019、2860円税込（担当：長倉守）

4 2020年度活動計画

(1) 機関誌『学校教育研究』第36号の編集・発行

(2) 「日本学校教育学会機関誌編集規程」「日本学校教育学会論文投稿要項」について、会則、年報との関係、実態を踏まえて検討を継続

2019 年度 実践研究委員会 活動報告・2020 年度活動計画

1. 委員会の構成

委員長 藤田 武志（日本女子大学）
副委員長 金井 香里（武蔵大学）
幹事 吉田 尚史（教職員支援機構）
委員 佐々木 幸寿（東京学芸大学）
委員 城内 君枝（埼玉県公立小学校）

2. 2019 年度の活動計画の活動報告

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大の影響により活動を自粛

3. 2020 年度の活動計画

① 公開研究会の計画について

以下のような要領で公開研究会を開催する予定であり、準備中である。

日時：10月25日（日） 13:00～15:30（予定）

手段：Zoom によるオンライン研究会

内容：テーマ （仮）「ICT 教育を学校現場でどう進めるか」

登壇者 ①城内君枝（埼玉県公立小学校）

②登本洋子（桐蔭学園情報科教諭）

③高橋 純（東京学芸大学）

2019～2020 年度の運営では、個人または学校の実践研究の促進と実践研究論文執筆の支援を行うことを目的とし、実践者には、㉞夏の研究大会で設置するラウンドテーブルにて研究経過を発表、㉟秋または冬の公開研究会にて成果の発表、㊱成果を論文としてまとめ、本学会研究年報に投稿して頂く予定であった。しかしながら㊱が不可能となったため、㉟を中心に進めることとなった。

② 岩手県一関市教育委員会と連携した学力向上支援事業について

本事業は、一関市の学校に東京学芸大学附属学校の教員を派遣し、算数および数学の指導法に関する指導を行うものであり、佐々木委員が中心となって推進中である。ただし、2020 年 9 月 12 月の研修への講師派遣は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止となった。

日本学校教育学会
2019年度（2019年8月～2020年7月）会計報告

1. 収入

項 目	予 算	決 算	備 考
1. 会費	2,425,500	2,933,000	納入件数：419 （2020年7月19日まで）
2. 機関誌等頒布	10,000	19,013	大学販売分、菅原様、土屋様、伊藤様
3. 寄付金	0	0	
4. 前年度より繰入	1,960,890	2,032,055	2019年7月31日時点
5. その他	0	6	ゆうちょ銀行利子
計	4,396,390	4,984,074	…①

2. 支出

項 目	予 算	決 算	備 考
1. 理事会費	350,000	156,257	
2. 研究推進委員会	100,000	161,210	年報編集費として50,000円を年度途中で増額
3. 実践研究委員会	150,000	150,000	
4. 国際交流委員会	150,000	150,000	
5. 機関誌編集委員会	250,000	250,000	
6. 機関誌買取代	1,200,000	1,319,690	『学校教育研究』第34号、『年報』第4号
7. 研究大会補助金	400,000	0	第35回研究大会延期のため執行なし
8. 学会褒賞費	30,000	0	学会賞副賞（今年度は該当なし）
9. 情報管理費	80,000	26,767	サーバー維持管理費
10. 郵送通信費	250,000	321,778	会員宛資料、機関誌、案内等送料
11. 事務局補助員等謝金	120,000	29,000	
12. 消耗品費	50,000	108,342	事務用品、学会封筒代
13. 教育関連学会連絡協議会	10,000	0	
14. 理事選挙費	0	0	次年度実施
15. 雑費	15,000	19,892	消費税、振込手数料等
16. 予備費	1,241,390	114,890	
計	4,396,390	2,807,826	…②

収入（①4,984,074円） － 支出（②2,807,826円） ＝ 次年度繰越金（2,176,248円）

以上、報告いたします。

2020年7月22日

事務局 蜂須賀 洋一
湯澤 卓

上記内容について根拠資料と照合の上、監査いたしました。報告事項に相違ありません。

2020年 7 月 24 日

監事

中村 映子

2020年 7 月 27 日

監事

茂木 輝之

資料 7

日 本 学 校 教 育 学 会
2020年度（2020年8月～2021年7月）会計予算（案）

1. 収入

項 目	2019年度決算	2020年度予算案	備 考
1. 会費	2,933,000	2,362,500	7,000円×会員数450名×0.75
2. 機関誌等頒布	19,013	5,000	販売分
3. 寄付金	0	0	
4. 前年度より繰入	2,176,248	2,176,248	2020年7月20日現在
5. その他	6	0	ゆうちょ銀行利子
計	4,984,074	4,543,748	

2. 支出

項 目	2019年度決算	2020年度予算案	備 考
1. 理事会費	156,257	350,000	
2. 研究推進委員会	161,210	150,000	2019年度より増額
3. 実践研究委員会	150,000	150,000	
4. 国際交流委員会	150,000	150,000	
5. 機関誌編集委員会	250,000	250,000	
6. 機関誌買取代	1,319,690	1,350,000	『学校教育研究』第35号 『年報』第3号
7. 研究大会補助金	400,000	400,000	
8. 学会褒賞費	0	30,000	学会賞副賞
9. 情報管理費	26,767	80,000	サーバー維持管理費、J-Stage作業
10. 郵送通信費	321,778	330,000	会員宛資料、機関誌、案内等送料
11. 事務局補助員等謝金	29,000	120,000	
12. 消耗品費	108,342	50,000	事務用品、学会封筒代
13. 教育関連学会連絡協議会	0	10,000	
14. 理事選挙費	0	0	
15. 雑費	19,892	15,000	消費税、振込手数料等
16. 予備費	114,890	1,108,748	
計	2,807,826	4,543,748	

日本学校教育学会役員一覧(2019 年 8 月－2022 年 7 月)

2020 年 8 月現在

■ 会 長

安藤 知子（上越教育大学）

■ 理 事

青木 一（信州大学）	○多田 孝志（金沢学院大学）
安藤 雅之（常葉大学）	中川 智之（川崎医療福祉大学）
牛渡 淳（仙台白百合女子大学）	○中山 博夫（目白大学）
釜田 聡（上越教育大学）	○藤田 武志（日本女子大学）
黒田 友紀（日本大学）	林 泰成（上越教育大学）
黒羽 正見（日本工業大学）	○原田 信之（名古屋市立大学）
○佐々木幸寿（東京学芸大学）	堀井 啓幸（常葉大学）
佐藤 真（関西学院大学）	松井千鶴子（上越教育大学）
菅原 至（上越教育大学）	矢嶋 昭雄（東京学芸大学）
鈴木久米男（岩手大学）	○山崎 保寿（松本大学）
瀬戸 健（富山国際大学）	林 明煌（台湾・国立嘉義大学）
	若井 彌一（京都光華女子大学）

<24名、五十音順、○は常任理事>

■各種委員会 <◎は委員長、○は副委員長、△は幹事>

□研究推進委員会

◎原田信之、○菅原至、田中謙（日本大学）、棚野勝文（岐阜大学）、
三村隆男（早稲田大学）、矢嶋昭雄、△福島正行（盛岡大学）

□国際交流委員会

◎中山博夫、○林 明煌、牛志奎（中国・馬鞍山師範高等専科学校）、
小池由美子（上田女子短期大学）、張建（東京電機大学）、林尚示（東京学芸大学）、
南美佐江（関西インターナショナルハイスクール）、△醍醐身奈（目白大学）

□機関誌編集委員会

◎山崎保寿、大越啄櫻（新潟市立南万代小学校）、奥泉敦司（金沢学院大学）、
黒田友紀、小西尚之（高崎健康福祉大学）、松井千鶴子、望月耕太（神奈川大学）、
△鈴木瞬（金沢大学）、△木下豪（筑波大学（院））

□実践研究委員会

◎藤田武志、○金井香里（武蔵大学）、佐々木幸寿、城内君枝（埼玉県公立小学校）、
△吉田尚史（教職員支援機構）

■学会賞担当理事

釜田聡、多田孝志

■会計監査

中村映子（筑波大学（院））、茂木輝之（学校法人軽井沢風越学園）

■事務局

◎蜂須賀洋一（上越教育大学）、△清水雅之（上越教育大学）
△湯澤卓（上越市立春日小学校）

JASE 日本学校教育学会 研究大会の歩み

	年		月 日	会 場	会 長	大会委員長	
発会式	1985年	昭和60年	9月15日	上越教育大学			出席者55名／会員数214名
第1回	1986年	昭和61年	8月9・10日	上越教育大学	—		
第2回	1987年	昭和62年	8月8・9日	信濃教育会館	大野 雅敏		
第3回	1988年	昭和63年	8月5・6日	埼玉大学	大野 雅敏		
第4回	1989年	平成元年	8月6・7日	東北大学川渡共同セミナーセンター	大野 雅敏		
第5回	1990年	平成2年	8月4・5日	上越教育大学	大野 雅敏		
第6回	1991年	平成3年	8月9・10日	弘前市民会館	牧野吉五郎		
第7回	1992年	平成4年	8月8・9日	大阪工大摂南大学	牧野吉五郎		
第8回	1993年	平成5年	8月7・8日	国立中央青年の家	牧野吉五郎		
第9回	1994年	平成6年	8月6・7日	筑波大学学校教育部	牧野吉五郎		
第10回	1995年	平成7年	8月5・6日	上越教育大学	新井 郁男		
第11回	1996年	平成8年	8月3・4日	聖徳大学	新井 郁男		
第12回	1997年	平成9年	8月9・10日	常葉学園大学	新井 郁男		
第13回	1998年	平成10年	8月1・2日	埼玉短期大学	新井 郁男		
第14回	1999年	平成11年	8月6～8日	上越教育大学	新井 郁男		
第15回	2000年	平成12年	8月5・6日	盛岡大学	新井 郁男		
第16回	2001年	平成13年	8月4・5日	名古屋学院大学	新井 郁男		
第17回	2002年	平成14年	8月3・4日	信州大学	新井 郁男		
第18回	2003年	平成15年	8月2・3日	富山大学	新井 郁男		
第19回	2004年	平成16年	8月7・8日	目白大学	山口 満		
第20回	2005年	平成17年	8月6・7日	びわこ成蹊スポーツ大学	山口 満		
第21回	2006年	平成18年	8月5・6日	広島大学教育学部	山口 満		
第22回	2007年	平成19年	8月4・5日	鹿児島大学	若井 彌一	梅野 正信	
第23回	2008年	平成20年	8月2・3日	仙台白百合女子大学	若井 彌一	牛渡 淳	
第24回	2009年	平成21年	8月1・2日	兵庫教育大学	若井 彌一	佐藤 真	
第25回	2010年	平成22年	7月31日・8月1日	東京学芸大学	多田 孝志	平野 朝久	
第26回	2011年	平成23年	8月6・7日	常葉学園大学	多田 孝志	角替 弘志	
第27回	2012年	平成24年	7月27・28日	武蔵大学	多田 孝志	和井田清司	
第28回	2013年	平成25年	8月2～4日	鳴門教育大学	高田喜久司	西村 公孝	
第29回	2014年	平成26年	8月8～10日	仙台大学	高田喜久司	太田 四郎	
第30回	2015年	平成27年	7月17～19日	目白大学	高田喜久司	中山 博夫	30周年記念大会
第31回	2016年	平成28年	8月5～7日	名古屋市立大学	佐々木幸寿	原田 信之	
第32回	2017年	平成29年	8月4～6日	上越教育大学	佐々木幸寿	瀬戸 健	
第33回	2018年	平成30年	8月3～5日	東京学芸大学	佐々木幸寿	國分 充	
第34回	2019年	令和元年	8月2～4日	金沢学院大学	安藤知子	米澤 利明	
第35回	2020年	令和2年	8月11～9月30日	JASEのHP上でのポスター発表	安藤知子		
第35回	2021年	令和3年		岩手大学	安藤知子	鈴木久米男	